

6 令和6年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の学び直しと日本語支援を充実させ、学ぶことに苦手意識を持つ生徒の生きる力の基礎となる能力の習得を目指す。 ②生徒の実情やニーズを踏まえた多様な学習機会の整備を図るため、ICTの活用を含めた環境整備、外部連携を推進する。 ③教科横断的な視点に立ち、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を育成する。	①生徒一人ひとりの実情に応じたより効果的な指導の確立を目指す。 ②生徒の実情や社会的ニーズを踏まえた多様な学習機会の整備を進める。 ③教科横断的な視点に立ち、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を育成する。	①課題のある生徒に対しての効果的な指導法について検討するべく、学年会や教科会およびSST等の研修を行う。 ②生徒が主体的に学習を深めていくようにするため、ICTをどのように利用するのが効果的か、検討を続ける。 ③教科横断的な視点に立った取組みを検討し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成するための取り組みを模索し、総合的な探究の時間では、「課題探究発表会」を継続する。	①課題のある生徒に対しての効果的な指導法について検討でき、生徒の実情に応じた指導法を確立できたか。 ②ICTを活用した授業をより充実し、生徒の実情や社会的ニーズをふまえた多様な学習機会が増えたか。 ③総合的な探究の時間において教科横断的な視点に立った取組みを行い、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成できたか。	①1年次学校設定科目「ホープ」において国語・数学・英語の基礎力の補充ができた。 ②2学期に電子黒板が各教室に導入され授業での活用はかなり進んだ。 ③総合的な探究の時間の授業では生徒の興味関心に沿って、教科にとらわれない研究・発表ができた。全日制を含めた県立高校の探究活動発表会においても高く評価される発表もあった。	①「ホープ」で得られた生徒に関する情報を職員全体で共有し、国語・数学・英語以外の教科でも授業の改善につながるようにする。 ②教員の利用に加え、生徒のICTの利用促進を図る。 ③総合的な探究の時間の授業は生徒の取り組みがよいが、発表することについて心理的ハードルが高い生徒もあり、全体のレベルアップできるようさらなる改善を検討する。	・地元商店街と生徒とのつながりを何かしら作ることができるとよいのではないか。総合的な探究の時間などで活用する方法などを考えてもらえるとうい。	①1年次学校設定科目「ホープ」では、基礎学力を丁寧に伸ばすことができた。学びに特性がある生徒についての情報共有が今後の課題である。 ②一人一台端末を活用し、すべての科目で個別最適な学びを推進する必要がある。 ③総合的な探究の時間における発表の形式を、ICTを活用することにより個別最適化することが必要である。	①1学年学校設定科目「ホープ」における学習状況について職員に情報共有を行い、生徒の特性を意識した指導を徹底する。 ②③一人一台端末の貸し出し方法を改善し、授業での活用を促進するとともに、ICTを活用した個別最適な学びをテーマとした研究授業を学校全体で実施する。
2	生徒指導・ 支援	①生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえたきめ細かな生活指導と相談体制を充実させる。 ②部活動を充実させ、生徒が有能感を感じられる取組みを進め、また行事等においても生徒の主体的な活動を支援する。	①生徒の現状と課題の把握および支援方法について定期的に検討し、全職員で情報共有を図る。特に、スクール・カウンセラー(SC)やスクール・ソーシャル・ワーカー(SSW)との連携を行い、組織的・計画的な校内体制を確立する。 ①全生徒への情報発信を日頃から行い、学校生活・健康・保健・安全・食育等について生徒の意識を高める工夫をする。 ②部活動・行事等の活性化を図り、限られた時間でも成果を出し、生徒が有能感を感じられるよう、部活動・行事等の内容や指導方法を工夫する。	①生徒の現状と課題や支援方法を情報共有会議等で早期把握、また、校内研修会等を活用し支援方法の共有を図り実際の指導に生かす。 ①きめ細かな生活指導と充実した個別相談を行い、生徒の困り感への対応と校内外のトラブルの未然防止に努める。 ①ICTの活用、保健便り、各種情報掲示物等を活用し、生活・保健・安全・健康等について、全生徒への情報発信を行い、生徒の健康上の問題や、生徒指導上の問題等を未然に防ぐ。 ①食堂の利用実態を把握するためにアンケートを実施し、利用率向上と食育指導の充実を図る。 ②部活動・行事等の時間をできる限り多く確保するために部活動週間等を活用し、限られた時間内で活動内容を工夫し活性化させる。	①SCやSSWと計画的かつ迅速に連携し、学年会や研修会等で情報を共有して実際の指導に反映させ、きめ細かな生徒指導や生活支援により生徒の課題解決につなげることができたか。 ①全生徒への情報発信を積極的に行い、学校生活や健康上の問題、生徒指導上の問題等を未然に防ぐことができたか。 ①食堂利用の実態を把握し、利用率向上と食育指導に繋がったか。 ②限られた活動時間を有効活用し、部活動・行事等がより活性化し、生徒の参加率を高め、心の充実度や達成感が増したか。	①教育相談担当者を中心に、SC・SSW、関係職員と連携し常に情報共有を図り、課題解決に向けて丁寧に長期的な視野を持ち支援出来た。 ①いじめやサポートドックアンケート結果に基づき早期に聞き取り及び面談等を行い、生徒の不安解消及び健康で安心安全な学校生活を目指し全職員に働きかけた。また、校内外の相談機関等を周知し相談環境を整えた。 ①食堂利用について全校生徒にアンケートを実施し、利用状況と課題等の把握を行った。 また、利用率向上及び食育促進のため、担当者が利用促進案内とメニュー等の連絡を随時行い、生徒の食堂利用に繋がった。 ②各部、部活動週間等の限られた時間を活用し、生徒の心身の成長に繋がる指導を行った。	①SC・SSWとの連携により、生徒の課題解決に向けて、職員全体で情報共有を図り、必要に応じて外部機関との連携や校内支援体制の周知を図れるよう、今後も継続実施する必要がある。 ①SC・SSWとの協働を図り、今後も本校の生徒の実態に即した研修等の実施や、課題解決に向けての支援方法の共有を図る必要がある。 ①夜間定時制生活における健康課題を意識できるよう、今後も食堂等の活用を含め、心身の健康生活促進を図れるよう具体的支援を探る必要がある。 ①生徒の自発的な活動と、心身の発達を促すことが出来るよう、各部の指導法の工夫と安全管理の確認を行い、活性化を図る必要がある。	・文化祭や部活動を通して、生徒が自己肯定感を感じられるような取り組みをしてもらいたい。	①SC,SSWとの連携により、丁寧に長期的な視野を持って支援することができた。 ①いじめアンケートやサポートドックの結果に基づき即座に面談等を実施し、生活支援グループのリーダーシップのもと、生徒の不安解消や健康で安心安全な学校生活を目指した。全職員で情報共有し協力体制を築くことが今後の課題である。 ②部活動の活性化を今後も進めていく必要がある。	①職員会議での生徒情報共有に加えて、毎日の打ち合わせ時にも生徒情報を共有するようにする。 ②部活動には生徒全員に所属してもらい、限られた活動時間内でより柔軟な活動ができるように支援する。

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの自己実現を目指し、教育活動全体を通したキャリア教育を推進し、4年間を見通したキャリア教育を実現する。 ②進路情報の提供について外部との連携を図り、内容を充実させる。	①生徒一人ひとりのキャリア意識を高め、自分の進路について深く考えさせることで、グループ、学年、教科、外部機関が連携し、組織的かつ継続的に、進級・卒業・進路決定につながるキャリア教育を推進する。 ②進路選択における情報提供を外部と連携し効果的に行う。	①生徒のキャリア意識を高めるために、進路ガイダンス、進路説明会、就職セミナー等を外部機関とも連携して実施するほか、進路なんでも相談、個人面談、授業やLHR等を利用し、個々の生徒に配慮した支援を行う。 ①4年間を見通したキャリアプランを検討し、継続的なキャリア支援を推進する。 ②ICTを活用した進路支援の方法を検討し、情報提供等、効果的なキャリア教育を推進する。職業適性検査を実施する。	①進路ガイダンス、進路説明会、進路なんでも相談、個人面談等を効果的に実施することで、生徒のキャリア意識を高めることができたか。 ①進級・卒業・進路決定に向けて生徒が主体的に考え、行動できたか。 ②情報提供等の進路支援で、生徒が自ら進路活動に取り組むようになり、各自に合った進路情報や自分の進路を主体的に考えることができたか。	①進路講演会年2回実施、進路なんでも相談、就職ガイダンス、身だしなみセミナーを実施し、在校生・卒業生のキャリア意識を高めることができた。 ②進路講演会を年2回に増やし、在校生の進路に考え機会を増やした。各学年の取り組みを集約し、校務運営G主体で推進した。 ③ハンディ進路指導室を導入し、校内求人票のデジタル化を推進した。さらに、それを活用し、総合的な探究の授業を実施した。	①進路ガイダンスや講演会等が一時的な支援で終わらないよう、個別的な支援を継続的に実施する必要がある。 ②4年間のキャリアプランを全体に示し、全職員で取り組める体制づくりが求められる。指導内容の見直しや新規企画の検討をおこなっていく。 ③3卒生への対応のため、ハンディ進路指導室の導入を2学年にも拡大・周知する。	・校内求人票のデジタル化は生徒の就職支援に有効だと思う。 ・4年間を見通したキャリア支援のプランを是非策定し、継続的に実施していくとよいのではないか。	①進路ガイダンスや講演会を適宜実施し、生徒のキャリア意識を高めた。今後は、4年間を見通したキャリア支援を実施する必要がある。 ②校内求人票のデジタル化を行い、就職活動を効率化した。早い段階で生徒に周知し活用できるとよい。	①4年間を見通したキャリア支援について、年度の早い段階から全職員に周知し、具体的に計画を進めていく必要がある。
4	地域等との協働	①保護者や地域と協働・連携した教育活動を展開し、信頼される学校づくりを行う。 ②教科やキャリア教育の観点で協働を図り。地域に根ざした学校を目指す。	①地域貢献活動・ボランティアや文化祭等の学校行事を活性化し、保護者や地域(地元商店街等含む)、関係機関の方々と本校との連携を深める。 ①ホームページ等による情報発信や広報活動を積極的に行い、希望ヶ丘高校定時制の特色や良さをアピールし、より正確に本校を理解してもらう。 ②教科やキャリア教育における地域との協働についての施策を検討する。	①地域貢献活動や文化祭等の学校行事を通して、本校と外部の関係機関、地域、保護者との連携を深め、信頼されて活気のある学校づくりを行う。 ①ホームページの定期的な更新を積極的に行い、広報活動を効果的に推進する。 ②総合的な探究の時間や進路活動の場面において、地域との協働の方法を検討または実施する。	①地域貢献活動や文化祭への参加者が増え、学校行事が活性化し、本校と外部の関係機関、地域、保護者・生徒との信頼関係が深まり、信頼される学校づくりにつながったか。 ①校内外での広報活動やホームページ等での情報発信を積極的に行うことで、希望ヶ丘高校定時制の良さをより正確に理解してもらうことができたか。 ②地域との関係を構築しつつ、次年度に繋げられる施策を検討または実施できたか。	①地域貢献活動では、全校生徒、職員、地域の警察及び青少年指導員、PTAの方々と一緒に地域の美化活動を行い、安全な通学路確保と地域交流を深められた。 また、文化祭では、保護者及び地域の方々と生徒との交流が多数見られ、活気があり、信頼される学校づくりに繋がった。 ①授業見学、広報誌の作成、文化祭のPTA企画など、保護者と学校との連携を深めた。 ①ホームページを常に更新し、学校見学を受け入れ、校内・外で希望ヶ丘定時制についての説明会を4回実施することで、本校定時制について正確に理解してもらうことができた。	①地域貢献活動は毎年継続実施するために、地域の警察及び青少年指導員の方々とPTAの方に協力要請をしていきたい。また、生徒会を中心に全校生徒の参加を呼びかけ、地域との連携の大切さを知る取り組みを絶やさず、今後も信頼される学校づくりに繋げていく。 ①PTA 活動や学校行事等への保護者の参加方法について更にPTA 役員とのコミュニケーションを取る。 ①定時制の特色を正確に理解してもらうため、ホームページの情報発信をよりタイムリーに行う。 ②総合探究の中で、地域との協働の可能性を模索する。	・1年に一度、地域貢献活動の際に地域清掃に地元商店街と警察署、青少年指導員の方にもご参加いただいている。生徒に少しでも地域とのつながりを感じてもらいたい。今後もぜひ続けていってほしい。	①地域清掃など、地域の方と連携しながら地域に貢献することはできたが、地域との連携方法をさらに工夫する必要がある。	①総合的な探究の時間などで、地域との交流やつながりを感じられるような試みができるとよい。
5	学校管理 学校運営	①生徒にとって安全・安心な学校づくりを推進するとともに、職員一人ひとりが事故・不祥事防止に積極的に取り組む。 ②業務改善のために業務のスリム化やデータ管理などを推進する。	①生徒一人ひとりが、法律を遵守し、交通安全や防犯、防災等に高い意識をもって高校生活を過ごすことができるように、説明会や講演会、訓練等を行う。 ②職員の事故・不祥事防止については、職員全体で主体的に取り組み、ミスや不祥事の無い職場環境を維持する。	①関係外部機関と連携して、実践的な交通安全教育、防犯教育、防災教育を効果的に実施する。 ①防災用品や防災備蓄品の点検をしつつ、実践的な防災訓練を実施する。 ②定期テストの共通化、情報共有、複数による点検確認作業の徹底等を継続する。	①説明会、講演会、訓練等を効果的に実施することで、交通安全や防犯、防災に関する生徒の知識や理解を更に深めることができたか。 ②事故や不祥事防止に取り組むことで、事故や不祥事を未然に防ぐことができたか。 ③ミスや事故・不祥事の無い職場環境を維持することができたか。	①車両通学者に利用時の取り決めと、交通安全の周知を図るために説明会を実施すると共に、日々声掛けを行い安全指導を行った。 ①地域貢献活動等において、地域の警察や青少年指導員の協力を得て、生徒の防犯意識の向上を図ることが出来た。 ①夜間定時制の特色を生かした実践的な訓練を実施した。 ②定期テストの共通化、情報の共有化、成績処理等の点検作業を徹底した。当事者意識を持ちながら事故が起こらない職場環境を継続することができた。	①車両通学説明会により、交通安全に対する生徒の意識付けを図り、事故防止に繋がるよう、日常の声掛けを行う。 ①地域貢献活動等を継続し、地域の警察や青少年指導員等の方々と協力し、生徒の防犯意識を高め、地域の安心安全な環境作りに繋げていく。 ①災害時にはより迅速に行動できるよう、夜間定時制に合った実践的な避難訓練を継続する。 ②職員の事故防止、情報の共有化、成績処理等での点検作業の徹底を今後も継続する。	・車両通学指導は交通安全教育の観点から評価できる。これからも全生徒に対する交通安全教育を充実してもらいたい。 ・防災教育についても、継続して実施して欲しい。	①車両通学者に説明会を行い、交通安全意識の向上を図ったが、更に生徒の防犯意識を高め、学校周辺の安全な環境づくりを進めることが必要である。 ①夜間定時制に合った実践的な避難訓練を実施した。 ②事故防止のための点検作業などを引き続き徹底する。	①交通安全や防犯、防災に関する生徒の知識を深められるような授業について、より工夫して実施する。 ②成績処理の点検作業やテスト答案誤廃棄防止等の対策を引き続き徹底する。